

No

44

クラスの間などと一緒に先生や友達の話の聞いたり、  
自分の経験したことや考えたことを話したりする。

…人とかかわり…

## 絵日記発表会


長期休み（冬休みや年末年始の休みの間）の  
楽しかった思い出を絵日記に表し、紹介しよう。

1月

### ☆ 視点に関わる背景（4月からの状況）☆

5歳児になると、園の最高学年になったことへの喜びが増し、泣いている年少児へ言葉をかけるタイミングが上手になったり、当番活動のあいさつの声が大きくなったりし、話すことが日ごとに上手になってくる。言葉での意志伝達では個人差があるが、園内の行事で園児の代表としてあいさつをしたり、プログラムを進行したりすることを繰り返し経験していくことで、人前での発表や発言を喜んで行うようになる子どもも多い。保育者は、クラスやグループ内で話し合う機会（行事へのかかわり方、活動の相談など）を徐々に増やしている。

### ☆ 接続期の状況（朝の会や帰りの会の時間）☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<p>子どもたちは、例年冬休み中の思い出を絵日記に表すことにしている。用紙は、八つ切りの画用紙を二つ折りにしてとじたもの(B5サイズで4ページ分)を使用する。描く（表現する）のは、幼児自身であるが、画材や表現方法（例えば、サインペン、パステル、絵の具、色鉛筆、折り紙等）は、親子で相談して決めている。</p> <p>休み明け、各自工夫して描いてきた絵日記を披露しながら、冬休みの様子を伝え合う機会を設定している。発表会では、一人ずつ発表の後、さらに質問に答えながら詳しく伝えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表 A：1月2日 かまくらを作りました。かまくらの中でココアを飲んだのが楽しかったです。</li> <li>発表後の質疑応答 B：かまくらは、誰と作りましたか？ A：お父さんと、妹と一緒に作りました。 C：今もかまくらはおうちにありますか？ A：少し小さくなったけど、まだ、あります。 D：ココアを飲んだ時は、一人ですか？ A：本当は、妹と一緒に飲みたかったけれど、かまくらの中が狭かったので、一人ずつ順番に飲みました。 E：お父さんは、飲まなかったんですか？ A：お父さんは、穴が小さくて中に入れなかったから、近くで見えています。 ： ：</li> </ul>	<p>保育者は、提案を最小限にし、子どもたちと相談して発表のスタイル（場所、発表順、発表方法等）を決め、発表会を始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで相談することにより、自分たちの発表会であることの意識を高めたり、自分の順番を楽しみにしたりする。</li> <li>質問のある幼児は自分で手を挙げ、発表者に指名された子が発言するなど、幼児同士でやり取りする楽しさを体験できるようにする。</li> <li>指名される子に偏りがあるときは、状況に応じて保育者が声をかけ、みんなが質問する楽しさを体験できるように配慮する。</li> </ul> 
<p>発表会后、絵本棚などを利用して、1～2週間ほど学級全員の絵日記を並べる。手に取れるところに置き、友だちの作品をじっくりとみることができるようにする。発表会后に思いついた疑問や質問を子どもたち同士で自由にやり取りできるように言葉をかけ、興味のある作品については、作り方や表現の仕方を教わりながらまねる楽しさを味わえるようにする。</p>	

### ☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

接続期でも、言葉での意志伝達には個人差がある。発表会等の場面では、友だちの話最後まで聞くことの楽しさや気持ちよさ、自分の気持ちが言葉を通して相手に伝えられるように話すことの喜びが感じられるように留意している。全体への話かけの中で、自分のこととしてとらえて聞くことが難しい子どもへは、話す側の立ち位置や話す時間、聞く側の幼児がイメージできる言葉や順番で話しかけているかなどに留意し、場合によっては信頼できる保育者がその幼児のそばに座ることで集中が持続するように援助している。また、保育者や友だちに自分の話を聞いてもらう喜びを感じる体験が、聞く喜びを感じることもつながるので自分から話したいと思える機会を増やすようにしている。